

令和3年神奈川県議会第1回定例会 総務政策常任委員会

令和3年5月11日

佐々木(正)委員

私は、マスク飲食実施店の認証制度について質問させていただきます。

まず、この認証制度の飲食店等への周知ですが、ホームページほか、どのように周知を県内の事業者にしているのか、これについてお伺いします。

総合政策課長

まず、今のところは御指摘のようにホームページのほか、くらし安全防災局が今見回りをしてございます。そこの見回りの職員にチラシをお渡しして、1件1件それをお配りして周知をお願いしています。

それから、今後は広い様々な団体にも周知をしていかなければいけないと考えていますので、今運用の立ち上げの期間ですが、一定のめどが立ちましたら、そういう団体との調整もしてまいりたいと考えております。

佐々木(正)委員

私がおかしいと思うのは、この間の答弁で目標を200店舗くらいにしているということが非常に不思議でしようがないんです。この御案内、ホームページに出ているのも、要するにマスク飲食の徹底を図ることで飲食店業者の皆様は持続的な営業環境を維持するとともに、利用者が安心して利用できる店舗を目指します。そうなのに、なぜ例えれば食品衛生協会だとか、団体がいっぱいあります。先にそこに案内して、全県でこれを取り組んでいきましょうとやるものが普通なのではないですか。くらし安全防災局が1件1件回っているときに紙で配らせて、いつまでかかるのか。団体がいっぱいあります。鮨商組合もあれば、いろいろな団体がまちの中にいっぱいあります。例えば、それが一遍にできなかつたら、食品衛生協会さん、県もあるし、それぞれの地域にも、市もあるし、そういうところでこういうものを推奨していきましょうとやって、その上で実施していく。1件1件回っていくのが普通なんだけれども、今話を聞くと、これから考えていきますというのではちょっと順番が違うのではないかと思うんです。この認証制度の目的からするとすぐにそういう団体を決定するべきではないかと思うんですが、いかがですか。

総合政策課長

先ほどの答弁は私が不足していた部分もあると思います。幾つかの関係団体にはもう周知をさせていただいておりまして、フードサービス協会さんは制度を立ち上げたときにこういったものを立ち上げましたということで御案内をして、傘下の団体等に連絡をしていただいたと承知をしております。その他の団体についてはまだちょっとできてない状況ですので、御指摘を踏まえまして至急やっていきたいと思います。

佐々木(正)委員

食品衛生協会を真っ先にやるべきではないですか。これは本当にやろうとしていますか。200店舗目標ということ自体が何か不思議なんです。委託業者さんも含めているわけですが、突然国が全部回れというのは、それは私は無理だと分かっているんですが、認証制度でも1,000件くらい委託業者が回ると前回

の答弁がありました。目標 200 店舗、この趣旨、目的からするとみんなで一生懸命やりましょう、事業者、店舗さんと、それから県行政と、市町村もそうですけれども、やろうという認証制度ということでいいんですよね、基本的には。その中で 200 店舗という目標を決めてきた、それから回れる人は 1,000 回くらい、1,000 店舗くらいにしていること自体がなぜなのかというのが非常に疑問なんですけれども、そこについて見解を伺いたいと思います。

総合政策課長

マスク飲食実施店については、御指摘のとおり、感染防止取組に掲げている項目や基本的な感染防止対策に加えて、マスク飲食実施店の認証要件を細かく付しております。制度設計時、これはかなりハードルが高いものなのかなと考えまして、200 店舗くらいはという形で目安を置いたというところです。

ただ、御指摘のとおり、目的はマスク飲食をしっかりとれているところが社会から評価されていくことですので、その先の目標としてはそういうものを横展開していくところまで考えておりました。

その中で当面の目標として 200 件と申し上げたのですが、ここについては既に目標を超える申請をいただいております。これは既にマスク飲食をただ推奨にとどまらず、積極的に取り組んでいただいている飲食店が多く、安全・安心なお店づくりに向けてこの制度への関心が高かったと認識をしております。200 件という制度設計自体の考え方、数が広がらないということを目標にしているのではないので、申請があって、仮に例えば要件に達してなくても、はい、駄目だよということではなく、こうすれば認証できますよというようなアドバイスもしながら、なるべく拾っていきたいという方向で運用してまいりたいと思います。

佐々木(正)委員

ハードルが高いから 200 店舗くらいだろうと積算して制度設計していると今言いました。それだったら、五万何千件ある店のうち 200 件取るということが本当に意味があるのかどうか。幅広く多くの県内で事業をしている人に、本来、安全・安心を与えてやっていくということが趣旨でなければいけないので、200 店舗取れればいいという考えは、制度設計、あるいは予算ありきの決め方なのではないかと私はすごく疑問があるわけです。しかも 1,000 件回るというのでしょうか。1,000 件回れるというのに、200 店舗しか認証されなかつたら、ほかの 800 件の店舗はうちは落ちちゃったみたいに逆に思っちゃうではないですか。だから、上がってきているのもさっきの報告で 343 件ですね。認証しているのが 8 件、アポが 60 件です。それだともう既に目標の倍以上いっているわけであるので、例えば 5 万件あって、5,000 件きたとしても、全部認証するべきなんだと思います。そしたら、この 1,000 件回っている NTT 関係の委託業者が 1,000 件回ったら、1,000 件申請させてあげなければいけないのではないか、落とすではなくて、その業者が絶対認証が取れるまで、手を挙げてくれたところにはそういう認証書をお与えする、そういうような気持ちでやらないと、内部の予算と制度設計と現場の感覚が私は合っていない気がするんです。それは県民の感覚、事業者の感覚からすると、手を挙げましたが、駄目でしたというのはなしにしないといけないから、手を挙げたところは全部取ってもらう。予算とか関

係ないというように腹を決めて県はやるべきだと思うんですけども、いかがですか。

総合政策課長

少し繰り返しの答弁になってしまいますが、委員の御指摘のとおりだと思います。手を挙げていただいたところは、そこはマスク飲食をやる意思があるところですので、それで確認させていただいた上で、駄目な場合、すぐ駄目ということではなく、どうしたらやれるのかということをアドバイスしながら、なるべく手を挙げていただいたところが認証を取れるように制度は運用していくたいと。このマスク飲食によって安全・安心な飲食店ができるということになげていきたいので、その考え方で進めていきたいと思います。

佐々木(正)委員

それには作業手段も必要です。だから、まずそういうのがあったから 200 件と決めたのではないかと、推測ですけれども私は思うので、これが追加するのであれば、この予算についても追加で考えていかなければいけないことが起こるかもしれません。そういうことも含めて、手を挙げていただいたところに対してはみんな認証させていただくというような思いでやっていただきたいことを最後に要望して終わります。